

■□ 実践報告 I

住み慣れた地域で安心して暮らすために ～西宮市における連携・協働の取り組み

高田 忠良（生活協同組合コープこうべ第3地区活動本部長）



はじめに

みなさん、こんにちは。私はコープこうべの第2地区活動本部で約4年間、本部長をしていました。いまからご報告するのは、そのなかで地域との連携のあり方や、地域のなかで生協はどういう役割を果たすのか、あるいは、どういう可能性があるのかということと取り組んできた実践の事例です。

1. 第2地区本部の 組合員活動とエリア状況

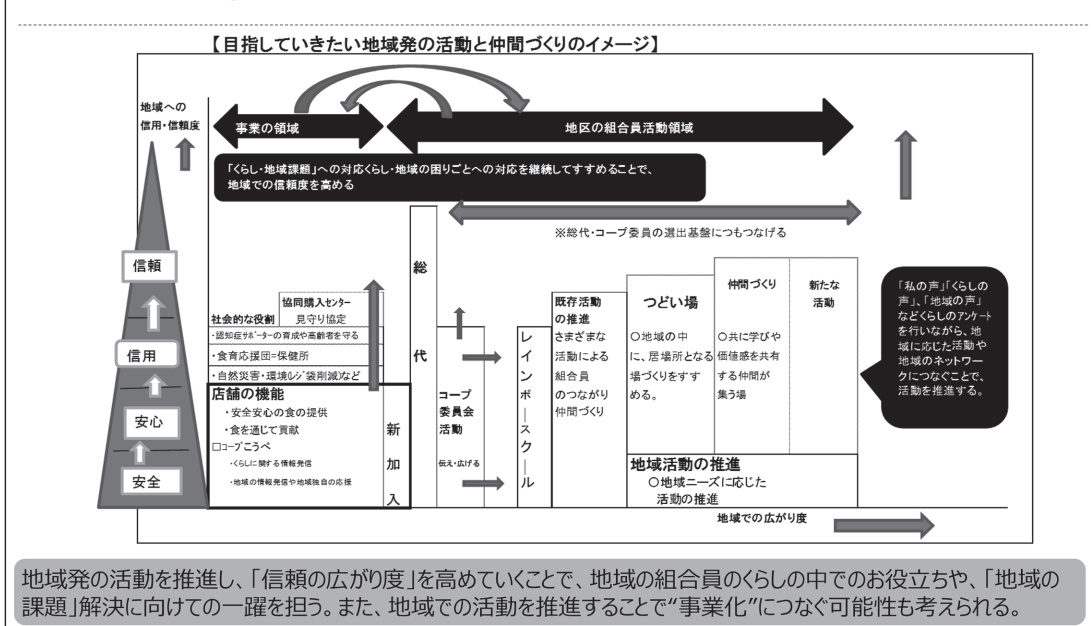
(1) 組合員活動の推進

「この地域でどういう活動を目指すのか」を示したのが図表1の「目指していききたい地域発の活動と仲間づくりのイメージ」という図です。（図表1参照）

第2地区活動本部のエリア内には、西宮市と芦屋市を合わせて15店舗があります。自転車でも回れるぐらいの距離の中に15店舗があるのですが、この図では、店舗の機能を軸にして、タテ軸に安全→安心→信用→信頼を据え、ヨコ軸に組合員の地域での広がり度を据えています。

なぜ、安全→安心→信用→信頼まで、高

第2地区活動本部の組合員活動の推進



図表1：目指していききたい地域発の活動と仲間づくりのイメージ

めるのかといえば、ひとつはコープが最も大切にしている「食の安全・安心」などを実現するためですが、もうひとつはこの地域でどういう役割が果たせるのか、あるいはどういう部分を行政や社協と連携してできるのか、そうした社会的な役割を店舗や協同購入等の事業が担うことができるのではないかと考えました。

それに対して、ヨコ軸の部分はまさしく「活動」です。店舗は、約2万世帯の地域に点在していますが、そのなかで組合員自身の暮らしの拠点として生協を位置付けてくれるのかという視点から、多様な組合員の参加の場という意味でヨコ軸に「広がり度」を据えました。生協の総合力を高め、広げることで地域のつながりを果たしたいと考え、この一年実践してまいりました。

（2）第2地区活動本部のエリア状況

第2地区活動本部のエリア内の組織率は77.5%です。コープこうべの地区は全部で7つですが、77%という組織率は他にはありません。この組織率のもとで、地域で何ができるのかという、ひとつの挑戦でもあるわけです。（図表2参照） 中学校区エリアで見ると、各地域の店舗があって、その周りに総代・コープ委員がいて、さらに組合員の自主的・自発的な活動であるコープサークル・くらぶがあり、地域の組合員（店舗利用組合員）さんがおられるという構図になります。第2地区の1日の来店組合員数は約3万1000人で、サークル・くらぶは約1500人の方に関わっていただいております、総代・コープ委員は約300名です。

第2地区活動本部のエリア状況

◇エリア：芦屋市全域、西宮市南部	
◇組合員数	225,659世帯
組織率	77.5%
◇事業所	
協同購入センター	2事業所
店舗 コープ	15店舗
ミニコープ	8店舗
在宅介護サービス	
居宅介護支援	1事業所
訪問介護	1事業所
コープカルチャー	1事業所
配送センター	
西宮市シニアサポート（西宮市からの受託）	
阪神友愛食品	



『西宮市内の店舗を拠点としたエリア』

図表2：第2地区活動本部のエリア状況

（3）地域発の仲間づくり推進

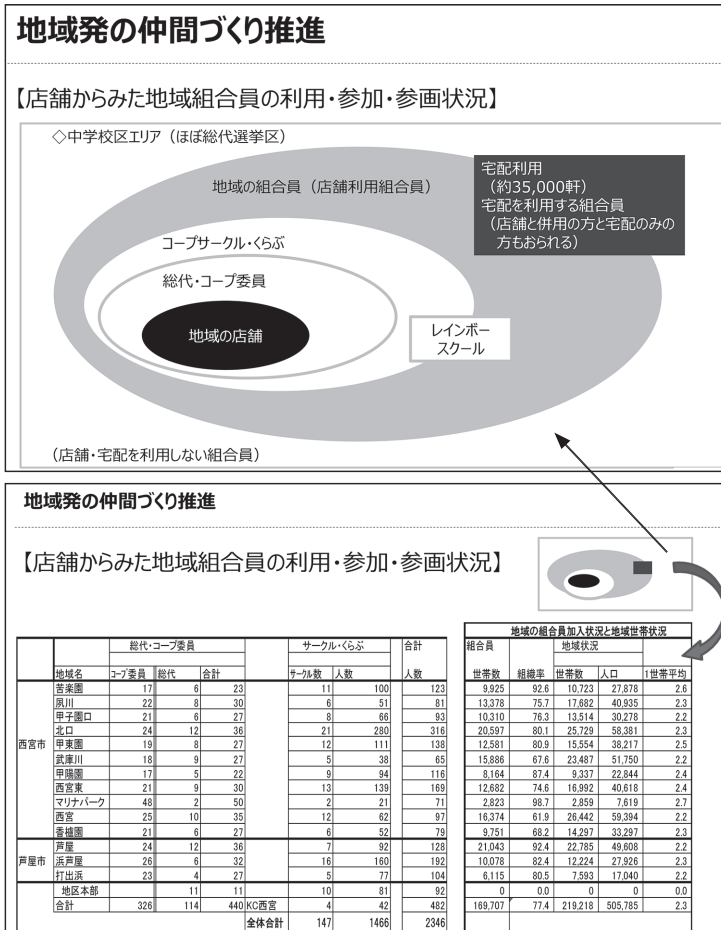
これを各店舗に落としこんだ「店舗からみた地域組合員の利用・参加・参画状況」の表（図表3①②参照）は、地域を見ていく際の最もベーシックな数字になります。たとえば苦楽園は、総代が6人、コープ委員が17人、サークルは11（100人）ですから、苦楽園の店長にとって「顔の見える関係」は123人にも上るわけです。組合員の組織率を見ると、9925世帯のうち92.6%という、びっくりするような高さですから、極論を申しますと、苦楽園は約1万の世帯のために存在し続けお役立ちを果たすことが使命です。そのために地域でいったい何ができるのか、地域のニーズに応えながら、どういう活動や事業を展開していく必要があるのか、それを考えなければいけないわけです。

2. 西宮市における連携・協働

（1）西宮市について

西宮市の南部は、古来から「神山（カミノヤマ）」とされ、別名「甲山」と呼ばれているぐらいです。甲山から見渡すと大阪湾まで見えるぐらい、とても平らな地域です。「日本書紀」には“務古水門（ムコノミナト）（武庫湊）”として、“難波の湊”

図表3①：店舗からみた地域組合員の利用・参加・参画状況のイメージ



図表3②：数値で、見る店舗からみた地域組合員の利用・参加・参画状況

とともに記載されています。シャレかどうかはわかりませんが、「難波の湊」から見て「向こうの湊」という意味だったのかなと思うぐらい平らです。

江戸時代には、西宮戎神社に代表される宿場町と、漁業の“浜方”で栄えました。

大正14年に市制が施行され、昭和26年に近郊の町村との大合併があって、現在の西宮市のかたちをつくりだしました。

現在に至るまでこうした「地域」の成り立ちを大切にしているのが、西宮市社会福祉協議会の分区の割り振りです。昔の村組織の単位をそのまま区にしながら合併を繰

り返してきた名残が、社協の分区にまだ残っています。したがって、分区は小学校区で約33、支部は中学校区（ほぼ旧村単位）で9という構成です。

こうした地域で社協は、分区をもとに公害問題や障がい者の自立支援などに取り組んできました。ですから、住民の自治力の強い地域でもあります。

（2）西宮市と

コープこうべの関係

コープこうべの歴史から西宮市を見ると、1932（昭和7）年に西宮出張所を設置しました。コープこうべの設立は1921（大正10）年ですので、その10年余り後に西宮出張所を設置したことになります。いまでも残っているのが1935（昭和10）年にできた関西消費組合学

校で、阪急の線路には「消費生活協同組合」という名前の遮断機があります。その東側に、賀川豊彦の教えを受けてできた「一麦保育園」があります。

西宮市とは、信頼を高めていくための取り組みのひとつとして、「緊急時における生活物資確保に関する協定」「市民福祉社会への協働憲章」「西宮市レジ袋削減等に関する協定」「高齢者見守り事業に関する協定」「高齢者に向けた消費生活情報の啓発活動に関する協定」など、いくつかの協定等を結んでいます。

(3) 西宮市における高齢者の くらしの課題

時代が変化するなかで、西宮市の自治会の加入率は77.3%と、横ばい状態が続いています。高齢化率は22.1%と、全国平均25.4%（2014.2月）に比べて約5%も低いのですが、高齢者の一人暮らし世帯は30.4%、高齢者夫婦世帯は32.9%と、全国平均と同様のレベルです。

地域活動の担い手という点では、ボランティア活動をされている方が、阪神淡路大震災のときに増え、その後少し減りながらも東日本大震災で少し増えました。しかしここ5年間は約4000人と微減傾向にあります。

民生児童委員に至っては、2013年度は714名ですが、高齢者数の増加とともに、その担当人数は1人当たり141名で、5年前に比べて1225%と、大幅に増加しています。

3. 地域の課題を「コープの課題」として受け止める

西宮市の状況を踏まえながら、どのように取り組んできたのかと申しますと、ひとつは地域の課題を「コープの課題」として受けとめるということです。社会的な課題はたくさんありますが、ポイントはコープの課題にできるかどうかです。その課題を見つけて、コープの課題として取り組むなかで、コープこうべ内での関連部署をコーディネートし連携をつくりあげることになります。

ここでは、3つの事例を報告いたします。ひとつは協同購入・宅配による高齢者見守り事業の推進、2つめは高齢者を中心としたさまざまな人たちの居場所づくりの推進、3つめは西宮市社協と分区の3者です。

すめてきた「高齢者見守り型配食事業」の推進です。（図表4参照）

当地区本部における連携・協働の取り組みについて	
○地域の課題をコープの課題として受け止める中で、コープ独自の活動展開や行政・西宮市社会福祉協議会、地域の諸団体と連携・協働をはかることで、課題解決に向けて一躍を担うことを考えた取り組みについて報告いたします。	
1. 高齢者見守り事業の推進	(西宮市・西宮市社会福祉協議会・地域の諸団体など)
2. 地域資源をつなぐことで、高齢者を中心としたさまざまな人たちの居場所づくりの推進から新たな連携を小地域で展開を考える。	
3. 西宮市社会福祉協議会 香櫨園分区での「高齢者見守り型配食」の協働推進	(西宮市社会福祉協議会・香櫨園分区・(株)コープフーズ(関連会社))
4. その他の連携・協働の取り組み	
①障がい者就労支援企画「モノづくりHappyステージ」の展開	
②コープ委員会による地域の夏祭り・秋祭りでの模擬店による参画	
一人一人のくらしの課題→地域の課題→コープの課題へ	

図表4：地域の課題をコープの課題と受け止める

(1) 高齢者見守り事業の推進

「高齢者見守り事業に関する協定」

高齢者見守り事業は、2012年に西宮市・西宮市社協・コープこうべが協定を結び、協同購入を母体にして、約35000世帯の見守り活動を進めてきました。不幸なことも喜ばれることもいろいろありました。地域に根付かせるために、センター長と西宮市内の地域包括支援センターとの顔合わせを行いながら、積み上げてきました。

当初はコープこうべだけでしたが、協力事業者は6社になりました。また、西宮市社協主催の「見守り連絡会」が年2回定期的に開催され、ここにはセンター長が出席しています。

店舗においては、西宮市の認知症サポーター養成講座を全店で行い、266人の職員がサポーターになりました。店舗の出入口やトラックには「認知症サポーターがいます」というステッカーを貼っています。

組合員活動による小地域における見守り

組合員のボランティアによる「ふれあい食事の会」（高齢者の昼食会）は、もう15年以上続けています。ここに来られている高齢者の方に認知症の兆候が見え始めるこ

とも、多分に出てきました。そこで、地域の小さなエリアですが、地域包括支援センターと連携することによって、小地域での見守り活動がスタートすることになりました。

さらには「ふれあい喫茶」は、地域包括支援センターから「軽度の認知症だけど、一人ですぐすよりも外出して人と話すことでリズムもできる」という申し出があり、諸団体が連携しながら、組合員ベースの小さな見守りをしています。

(2) 地域資源をつなぎ、居場所づくりの推進から新たな連携へ

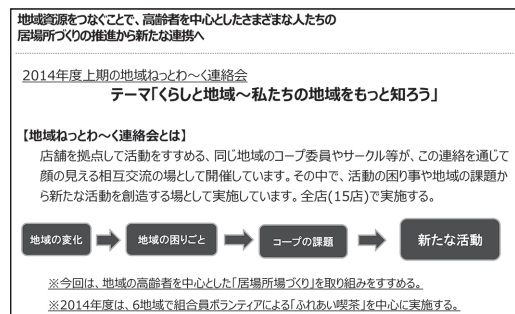
「地域ねっとわ〜く連絡会」

昨年から「くらしと地域〜私たちの地域をもっと知ろう」というテーマで、「地域ねっとわ〜く連絡会」が立ち上がりました。これは、各店舗で機関運営のコープ委員会とサークルリーダーのみなさんが定期的に集まっている会議です。これまではあまり稼働していなかったようなので、少し内容を変えて、自分たちの地域を知ろうということにしました。そうすると地域の変化が見えてきます。西宮は古くからの地域ですが、従来のお祭や運動会や子ども会がなくなった地域もある、ということがわかってきました。

そういう地域でどんな困りごとがあるのかを聞いてみると、「高齢者が野良犬や野良猫に餌をやっている。その犬や猫が糞をする。衛生上悪いので、地域の問題になっている」とか「歩道橋をつくってほしい」「街灯をつけてほしい」ということが上がってきました。

これらの困りごとをコープの課題に置き換えると、たとえば高齢者による犬猫への餌やりは保健所に連絡すれば済む話です

が、組合員のみなさんで議論をしていただくと、「そうじゃない。人間にスポットを当てたら、孤独や、行き場所がないとか、ご近所との付き合いがない、という問題があるのではないか」という話になり、「居場所づくりをしよう」ということで、新たに「ふれあい喫茶」を地域や店舗にもつくることになりました。西宮市全般の課題よりも、もう一歩踏み込んで、地域のなかの課題を引っ張りだして、それに対してコープとして何ができるのか、というスタンスで取り組んできたわけです。(図表5参照)

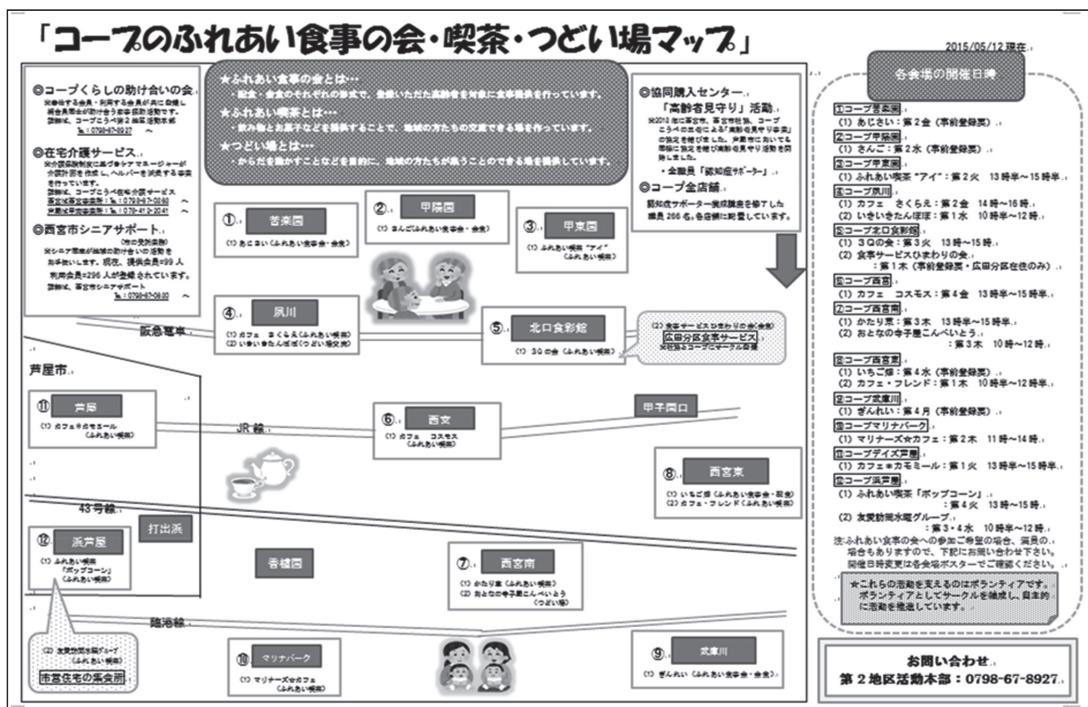


図表5：地域ねっとわ〜く連絡会

「コープふれあい食事の会・喫茶・つどい場マップ」

去年は、いままでやっていた配食や「ふれあい喫茶」に加えて、5つの「ふれあい喫茶」と1つの「つどい場」をつくりました。これは、まさしく新たなボランティアの発掘の場になりました。わずか月1〜2回しかできない取り組みですが、地域の人たちがボランティアをすることによって、地域のなかにおられる高齢者や子育て中のお母さんたちが自分の地域のなかで顔の見える関係をつくっていきこう、というのがねらいです。

これを、「コープのふれあい食事の会・喫茶・つどい場マップ」(図表6参照)というかたちにして、全店に貼りだしています。そうすると、70代ぐらいのおじいさ



図表6：コープのふれあい食事の会・喫茶・つどい場マップ

さんが「ぼくはいつも、マップに載っているコープの店を順番に回ってるんや」とおっしゃるんです。順番に回るとはすごいことだと思って、さらにお聞きするとそのおじいさんは、「それが楽しみなんや。一つひとつのお店の個性が出ておもしろいよね。ボランティアの人たちと話もできるし、わしが元気なうちは回ろうと思うんや」とおっしゃいました。

(3)「高齢者見守り型配食」の協働推進

一方で、地域の課題として出てきたのは、見守り型の配食です。西宮市社協との協働推進による、香榭園地区の「高齢者見守り型配食」についてお話をします。

香榭園地区の民生委員さんから「地域で老人給食を月2回実施しているが、閉じこもりや身体的理由で会食には参加できない高齢者がおられる。ぜひコープさんと一緒

になって、配食型見守り活動ができないだろうか」という申し出がありました。コープこうべでは、「夕食サポートまいくる」で、毎日夕食をお届けできますが、「週1回程度で、使い捨て容器方式でできないだろうか」とのことでした。そこで昨年、コープこうべと西宮社協と一緒に研究会を立ち上げ、約1年間の論議を重ね、今年4月から「高齢者見守り型配食」を実施しています。

ただ、この地域の高齢化率は16.9%と高くはなく、子どもたちが非常に多い地域です。若い人は多いけれどもボランティアにはまだ参加できず、高齢者を地域ぐるみでしっかりサポートできるだけの態勢ではありません。そういう課題に向き合う中で、新たなボランティア活動の発掘にもつながりました。特に、男性がカーボランティアとして夕食の配達に回ったりしています。

ボランティアは23名、利用者は28名です。これは新たなモデル事業として、西宮市内の他の地区でも広げたいと考えていますし、コープこうべにとっても、他の市町村でも十分に考えられる活動ですので、まさしく総合力で対応できるのではないかということが見えてきました。

(4) 障がい者就労応援や地域の既存組織との連携

西宮市では、歴史的にも障がい者運動を独自の取り組んでこられた街でもあります。住民による障がい者理解を深める学習会や交流など通じて、“共生の街づくり”を目指して取り組まれています。

国は、障がい者が働く施設から優先的に商品を購入するよう地方自治体などに求める「障害者優先調達推進法」を2013年4月に施行されました。西宮市では市の外郭団体として「ジョブ・ステーション西宮」を設置しました。目的は、西宮障がい者の経済的自立をめざして、販売促進をはかるための営業と障がい者理解を深めるために設立されました。現在、この「ジョブ・ステーション西宮」には、これからモノづくりを始めようとする団体も含め、約40の団体が加入し、共に自立をめざして取り組んでおられます。

コープこうべでは、実施店舗とジョブ・ステーション西宮が共催し、障がい者就労支援「モノづくり Happy ステージ」（図表7参照）として、2014年3月からコープ店で定期的実施しています。約18団体が参加されています。この活動をすすめる中で、地元の自治会やコープのサークル、コープ委員会も参加するなど、共生の輪が広がっています。現在、市内3店舗で定期的に実施しています。また、この活動には、西宮市社会福祉協議会の後援もいただき地

域と共に推進しています。

また、地域コープ委員会では、地域の住民であり、コープ委員でもあります。コープ委員会として「地域の夏祭り」や「神社の祭り」等の地域行事においても自治会、氏子等との打ち合わせから参画して出店するなど、地域と共に20年以上の長きわたり活動をすすめています。このような関係は、組合員からみれば、地域の一体となった活動です。



図表7：障がい者就労支援「モノづくり Happy ステージ」

4. 生協の関わりと今後

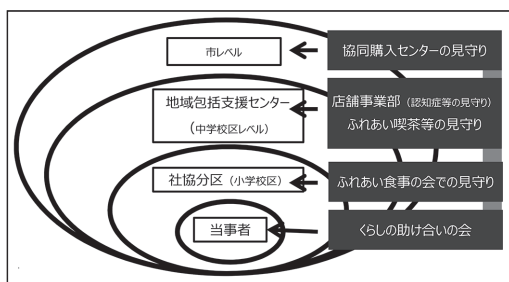
(1) 地域における生協の関わりについて考える

さまざまな取り組みを通して、地域における生協の関わりについて考えますと、くらしのニーズや地域ニーズと生協の総合力をコーディネートすることによって、新たな地域づくりにもつながります。

これを図（図表8参照）にすると、当事者を軸にして、社協における小学校区レベルの分区ではふれあい食事の会での見守り、地域包括支援センターにおける中学校区レベルでは店舗での認知症等の見守りやふれあい喫茶等での見守り、全市レベルでは協同購入センターでの見守りということになります。

厚生労働省が言うところの「地域包括ケア」は、現在の中学校区レベルで、生活圏域は約 30 分とされています。そういう地域で住民参加型の取り組みを地域包括ケアのひとつに加え、医療・介護・福祉の専門職との連携を図ることによって、地域づくりにつながります。

つまり、一人ひとりのくらしの課題を地域の課題にし、地域の課題をコープの課題に結びつけていくという考え方です。コープの課題として受け止めるためにも、地域住民でもある組合員主体に活動を進めることが大切だと考えます。



図表 8：地域における生協の見守りイメージ

（2）「西宮市社協第 8 次地域福祉計画」と今後の連携・協働

もうひとつ申し上げたいのは、今後の連携・協働による取り組みです。いままで社協との連携に取り組んできましたが、今後は「西宮市社協第 8 次地域福祉推進計画」（2015～2020 年）に基づいて、3 つの連携・協働の取り組みを展開しようと考えています。

神戸市社協、兵庫県社協、コープこうべの三者は、震災後の 1999 年に「市民福祉社会への協働憲章」を 3 者で確認しました。そこで、西宮市内でも、これまでの災害救助支援等の連携に加えて、（1）香櫨園分区分における協働配食事業を検証し、他分区分での展開も視野に入れて検討をすすめる、

（2）東日本大震災復興支援活動の協働展開をすすめる、（3）協働での居場所づくり（空き家等の活用）の検討・モデル事業実施に向けてすすめる、という 3 つの取り組みを日常的にやってみようということになりました。特に（3）については、空き家が増えていますので、西宮市社協とコープこうべの間でモデル事業を展開することにより、地域のなかで高齢者も子どもたちも集える場づくりを小地域単位ですすめる方向です。

これからは生協がどう地域と向き合うのかをしっかりと押さえることによって、地域の一員としての組み立てが可能になるのではないかと考えます。

（3）地域の歴史や特性をふまえて

コープこうべには、7 つの地区活動本部があります。地区ごとにすべて異なります。合併もあり、発祥の地の東灘区など古い地域は約 95 年の歴史がありますが、姫路地域や但馬地域はまだ 35～40 年の歴史で、組織率も低いです。そうした歴史や地域性の違いも踏まえて、各地区活動本部で、さまざまな取り組みがスタートしています。第 2 地区も同様にこれからも、地域組合員と共にすすめていきたいと考えています。今回ご報告した活動は、組織率の高い地域での展開として、こういうかたちができたといい事例として受け止めてくだされば幸いです。

以上で私の報告を終わります。ありがとうございました。